

BCAO仙台地域勉強会（2020年8月7日）議事録
（「企業・組織のBCP／防災勉強会@仙台」と合同開催）

1. 日 時：2020年8月7日（金）17時より18時30分まで
2. 場 所：ZOOM
3. 参加者：計17名
*事務局：丸谷（座長）、丸谷研究室 伊藤

議事①：「令和2年7月27-28日の山形県を中心とした豪雨災害の調査状況について」

発表者：東北大学 災害科学国際研究所 丸谷

内容：災害科学国際研究所 HP に掲載された研究資料

https://irides.tohoku.ac.jp/research/prompt_investigation/july2020_flood.html を基に説明

Q:資料には、区長が16:30に住民に対し避難の呼びかけを行ったとあるが、どのようなルートで行政から区長に連絡が行ったのか？

A:資料には大石田町の対応として16:30に避難情報の発令とある。河川の避難情報の発令基準は国土交通省の定めているものであるが、資料によると役場では最上川の水位計を確認して発令基準より前に発令したようである。役場が発令の際には、一般に、区長に直接電話連絡する場合と、エリアメール、防災無線等を用いるケースがあると思う。今回の避難が成功した理由として、遅れがちな高齢者等の避難の情報を早めに出したことと、住民側も先行災害となった球磨川の避難の遅れによる死亡者発生を知っていて、避難の意識が高かったことが資料や報道から読み取れる。

Q:今回もハザードマップで想定されている被害と同様の浸水被害だったのか？ また、地域の商店などで避難情報の発令により水や食料が売り切れたりするような事例はあったか？

A:昔から氾濫すると言われていたところが氾濫しているとの報告から、ハザードマップ通りと推察できそう。最上川に流入する街中の小河川が氾濫を起こした事例が多く報告されている。最上川など大きな河川のハザードマップは作成されているが、流入する支流のハザードマップは整備されていないことが多い。しかし、支流が氾濫した場合、最上川が氾濫した場合に浸水しやすい低い土地が被害を受けやすいだろう。ただし、支流の氾濫を計算に入れていないところでは、被害想定がされていない場所でも被害があった。水や食料の品薄は報告されていないが、一部の避難所に人が集中してしまい、他の避難所に振り分けた事例は報告に記載されている。

Q:災害時の道路の通過可能情報の収集について、災害対応時にどこのホームページを見たらよいか分からなかった。

A:大規模な災害などの際は、企業やボランティアなどが実際に通って確認した“通れるマップ”のようなものが作成されることもある。TOYOTA のサイトには“通れた道マップ”といったものがある。HONDA にも同様のサイトがある。

Q:大蔵村で气象台とのホットラインがあるとのことであるが、これは大蔵村が普段から豪雪地帯であることと関連があるのか？

A:以前は国の機関の气象台が都道府県を飛ばして市町村と直接連絡を取ることがよいか、といった議論もあったが、近年は台長と首長が携帯電話で直接連絡を取れるようにしていることも多い。

Q:報道で雨が止んだ後に水位が高まるといった情報を聞いたが、これはどのような情報を基に予測しているのか？

A:河川水位の予測は地方整備局が最も関心を寄せていることである。地方整備局が上流の水位や降水量を基に計算する。気象庁の出した降雨の予想と河川の水位情報とを併せて国交省の“水位予測システム”に入力することで予測することができる。

議事②:「新型コロナウイルスの情報交換」

進行:東北大学 災害科学国際研究所 丸谷

内容:最初に現在の東北大学の行動指針について説明し、その後に参加者が自組織の対応などについて発言し、情報交換を行った。各組織の発言内容は議事録公表を控える。

Q:マスクをしたままの作業で熱中症となった事例がある。何か工夫はあるか？

A:東北大学では、熱中症対策優先で室内でも2m以上距離を取れる場合にはマスクを取るように言っている。空調も換気と冷房のバランスをとるようにとの指示である。新型コロナウイルスより熱中症の方が発生リスクが高いため、マスクをするのは会話するときなどで十分としている。

Q:感染症蔓延下で広域災害が発生した場合のBCPの在り方、特に従業員にどのように伝達するかを悩んでいる。

A:本研究所の研究者は、避難所よりも安全な高台や親戚の家などに避難することを推奨している。避難所はそこしか行く先の無い人を優先し、それ以外に避難できる場所がある人は、そちらに向かってもらいたいということ。避難所に入らない選択肢の取れる方は避難所に入らない方が本人のためにも地域のためにも感染症対策として良いことから、その

ような避難計画を作成していただきたい。

Q:感染者が発生した場合、感染者の居た場所はどのくらいの期間感染症のリスクがあるのか。また墓参り等は控えるべきなのか。

A:論文だとプラスチック表面では3日は感染力が残るとされている。ただし、人の出入りがあると症状のない人からの感染がありうる。なお、感染者や濃厚接触者、医療関係者への差別が発生しないように注意をしている。

Q:新入社員が配属されても歓迎会ができないし、退職者の送別会も開けていないので、社員間で会話ができず、コミュニケーションに課題を感じている。ネット飲み会では限界もある。社内コミュニケーションの手法として事例があれば知りたい。

A:東北大学でも、新入生の孤立感が強く、メンタルケアなどを真剣に取り組もうとしている。例えば、教員や上級生と定期的にコミュニケーションを取れるように努めている。コミュニケーションの手法は東北大学でも検討中である。